

今年は、昭和6年に当時の士幌村から分村してから80年となる記念すべき年です。今月から主にここ20年の出来事を中心に本町の歴史を振り返っていきます。

シリーズ
1

かみしほろの歴史を振り返る

開拓く上士幌分村（昭和6年）く町制施行（昭和29年）

開拓

十勝において移民が増え始めたのは、明治29年の頃。内地府県の資本家、移住民たちは、少しでも交通の利便に近く、しかも飲料水の便がよく、地味肥よくと思われる大河川に沿って、入植が集中していた。奥地で交通が不便な上、気候、地力が劣ると見られた上士幌地区は、初期の段階では、ほとんど着目されていなかった。

そうした中でも広い土地を持ちたいと北海道へ志した移民たちの多くは、やがて、開拓営農への自信と力が備えるようになる。奥地の広い土地に移転、挑戦するものが出てきた。そして、明治40年3月、広い大地の上に密林が覆われていた上士幌原野に安村治高丸をはじめとした6名の入植により開拓が行われたのである。

分村く町制施行

明治34年10月に河東郡を一円とした「音更ほか2か所戸長役場」が独立した役場を下音更に開庁し、翌年、現在の音更町役場の位置に庁舎が新築された。

当時、河東郡が一つの音更村という区域は、奥地に開拓が進むにつれて集

町制施行（昭和29年）

落が各地に散在し、役場所在地との連絡が容易ではなく、不便が多かった。大正5く6年頃、第一次世界大戦で雑穀相場が暴騰して開拓途上の農家の気勢が大いに上り、開拓が各地で広がった。

大正10年、音更村は、「音更村」、「鹿追村」、「上士幌、中士幌、中音更など」の一部を含めた「川上村」に分村され、「川上村」は、上士幌方面への奥地開拓が進んでいる状況から、現在の士幌市街に役場を置くことになった。大正14年には、それまで別の行政区画であったサクシユオルベツ川から東の地域が区域変更されたのを受け、「士幌村」と改称した。

北海道の地域開発途上で、鉄道敷設ほど大きな効果もたらされたものもなく、無人の原野に鉄道駅が開設されるとその情報だけで予定地付近に事業者、商人が先行し、開通と共に振興市街地が形成され、農村部への未開の原野へ移民が増えた。大正14年帯広く士幌間が開通、翌年7月に上士幌駅まで開通したのを受け、入植者が激増し、農畜産物や奥地森林資源の開発・集散地としての市街地が急速に形成された。

活気に満ち、開拓の内を豊富に持つ上士幌で分村の気運が高まったのは、昭和4年で、分村期成同盟会が結成

されて表立った行動が開始された。その後、分村を請願する旨の議決が村議会で可決されたが、昭和5年、世界的な経済不況が農村を襲い、村財政は悪化。分村問題を延期もしくは中止させる空気が強まり、「いま分村すれば今後の発展は望めない」などの理由で分村延期を議題とする議案が開催された。

「上士幌分村期成会」のむしる旗を押し立てて40く50名が議事堂に乗り込んだり、上士幌側の議員8名が分村を実現しなければ全員辞職するとしたが、議事が難航したものの、分村延期が可決され、8名の議員も辞表を提出した。その後、村長は、事態収拾のため、上士幌地区議員8名、区長、納税組合長8人を招いて懇談会を開催、その後村会を開催し、「分村は明年にするが、境界は母村に有利なように変更する」という協定書が結ばれ、一挙に円満解決がされ、昭和6年4月1日上士幌村が誕生した。

それから23年後、糠平ダム工事によって人口の入り込みが急増し、それに伴い、各種産業が活気を増し、住民から町制施行の声が高まった。そして昭和29年4月1日付けで、十勝で13番目の町として、「上士幌町」が誕生した。



▲上士幌村役場



▲分村を決めた最後の士幌村議会議員（昭和6年3月）

町民(文)芸

川柳

再会に復興誓うハグをする
 春風に乗って自転車漕いで行く
 花植えてきれいに咲くと世話をす
 春色の若葉が芽吹く五月晴れ
 種イモは縦に切るのが常識だ
 張り切って入社したのに五月病
 なき兄の良き思い出を胸に抱き
 カッコーの声で豆まきせかされる
 カロリーを気にしながらも食べ歩き
 陽炎が旅立つ吾子等を包みゆく
 自画像に描き足す色が見つからず
 被災地に咲いた桜をそっと触れ

短歌

亡き義母の里なる相馬の人たちの無事を確かむ二週間経ちて
 父祖の地を守りて米を作りたる相馬のいとこを思えばつらし

石川裕子

米澤萌歌
 米森博樹
 鈴木豊
 米森真弓
 薮根守
 小池由希子
 八重樫幸子
 小松義美
 馬場美子
 坂田いさ子
 白石馨
 桜花絵

平成23年3月末現在の人口

男 2,509人(先月比-6人)
 女 2,662人(先月比-4人)
 計 5,171人(先月比-10人)

世帯数
 2,340世帯(先月比-4世帯)

寄付

- ▶ 萩ヶ岡の根本則男さんは、3月23日に災害支援経費として金50万円を寄付されました。
- ▶ 国際ソロプチミストおとふけは、3月28日に町の振興資金として金3万円を寄付されました。

上士幌町民憲章

- 心もからだもきたえ、すこやかな人になりましょう。
- おたがいに立場を理解しあい、楽しい家庭をつくりましょう。
- きまりを正しく守り、明るい社会をつくりましょう。
- 自然を愛し、美しく住みよいまちにそだてましょう。
- 文化をたかめ、豊かな郷土を築きましょう。



紙新年度が始まり、「広報かみしほろ」の誌面構成が一部変更になりました。紙その一方、上士幌町公式HPのリニューアルに向けた作業を現在進めています。もうすぐ、生まれ変わったHPをお届けできると思いますので、ご期待頂ければと思います。(…Y)

紙先日、娘は、ディズニープリンセスの自転車を買ってもらいました。私は歩いて一緒に散歩をしているのですが、あまりのスピードに小走りをさせられています。紙そんな中、「プリンセスになりたい」と言った娘。「パパは王子様になるね」って言ったら、「まゆげが太いからダメだねえ〜」だって。(交通ルールを守りましょう…K)

広報.....
がみしほろ 6月号は**5月25日(水)**発行予定